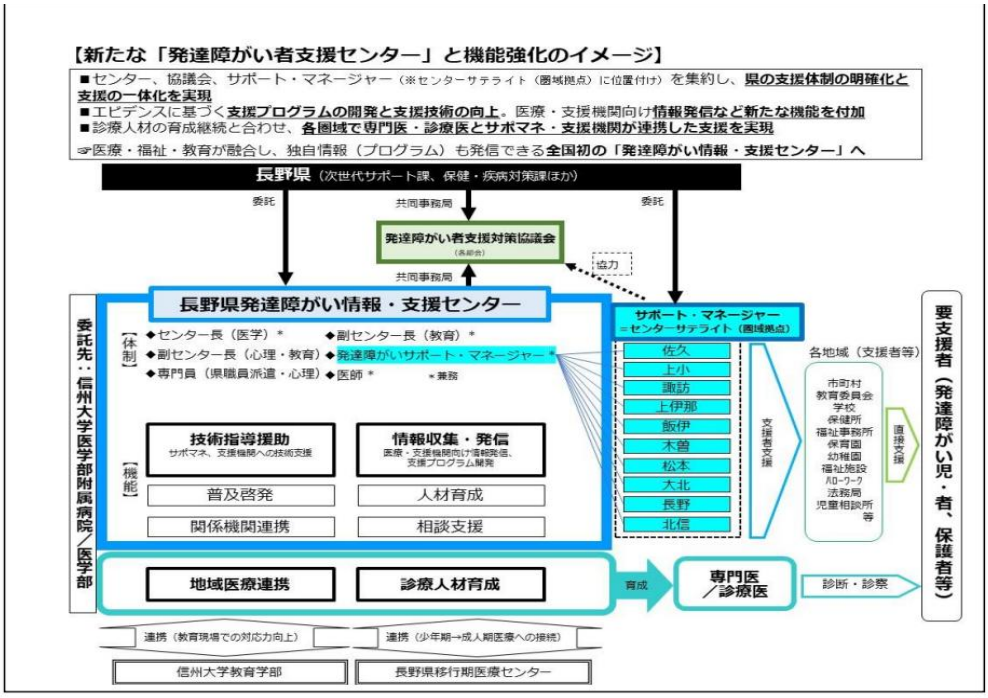
発達障がいのある子への理解と支援
～わたしたちにできること～

2025, 5, 18

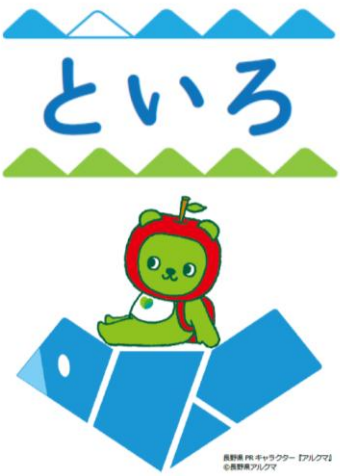
長野県発達障がい情報・支援センター
副センター長・コーディネーター
公認心理師　臨床発達心理士SV　ガイダンスカウンセラーSV
宮内　かつら

(c) 2019 gingakobo



長野県発達障がい情報・支援センターについて

長野県発達障がい情報・支援センター



長野県精神保健福祉センター内に併設されていた「長野県発達障がい者支援センター」を、令和５年４月から「長野県発達障がい情報・支援センター」と名称を改めた上で、信州大学医学部附属病院で業務を受託しました。

信州診療連携部門
難聴児支援部門
難病相談支援部門
難病診療部門
移行期医療支援部門
てんかん部門
発達障がい情報・支援部門

信州大学　医学部

信州大学附属病院

長野県発達障がい情報・支援センター

R6 の実績報告（最終報告） と R7年度の計画

発達障がい支援センターの役割

国立障害者リハビリテーションセンター

（1）相談支援

（2）発達支援

（3）就労支援

（4）普及啓発・研修

長野県発達障がい情報・支援センターの実績報告（R7,3月末）

Ⅰ　発達障がいに関する相談対応

188件（電話、一部来所）

☆9割以上が成人の相談
（当事者　保護者　ご家族　知人）

長野県発達障がい情報・支援センターの実績報告（R7,3月末）

（3）　普及啓発

○　R5,6月からホームページの開設
ホームページユーザー数　　4万7000ユーザー
（アクセス件数ではなく当センターホームページ利用者実件数）

○発達障がいサポーター養成講座

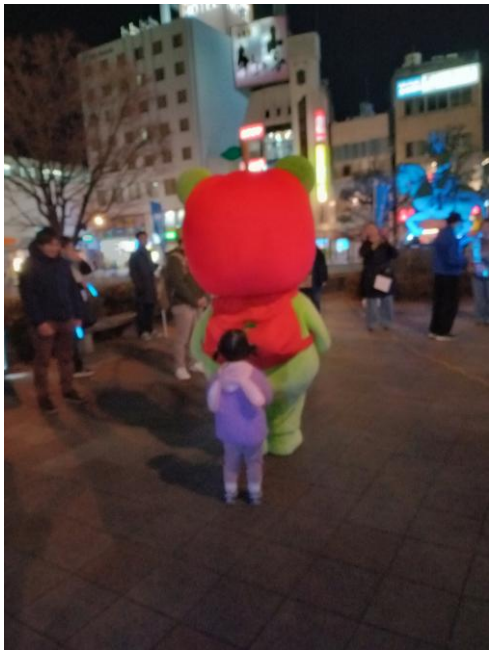
実施回数　　23回

3 普及啓発

R7　発達障害啓発週間

3 普及啓発

R7　発達障害啓発週間



センター3年目の展望

②「アセスメント＋支援」チームの育成 継続

医療と教育の連携強化のひとつとして
各種アセスメントの対応可能な人材育成を核にし、発達障害の診療（医療）と
現場における支援ができる人材（教育・医療・福祉）の
連携ネットワー クの構築に向けて

R7　研修予定

５月１０日（土）、１１日（日）	K-ABCⅡ　検査法　K-ABC学会
６月２６日（木）	STRAW-Rと読み書き検査　大六先生
８月　６日（水）	Vineland　Ⅱ　検査法　黒田先生
１１月２２日（土）、２３日（日）	WISC-Ⅴ　検査法　大六先生

センター3年目の展望

③「発達障がい支援のための資源ハンドブック 改訂 第5版

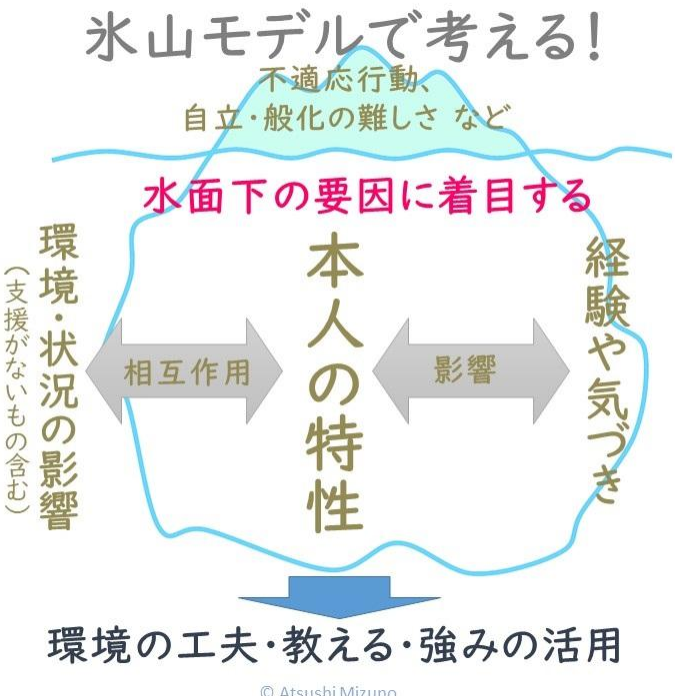
④ 強度行動障害
今後の動向を見ながら検討していく

⑤就労支援の強化
成人の方の相談が多いことから、成人の方の生活支援、
就労支援について、地域の支援者と課題を共有していく。
ニューロダイバーシティ推進員の配置
東北信：1名
中南信：1名

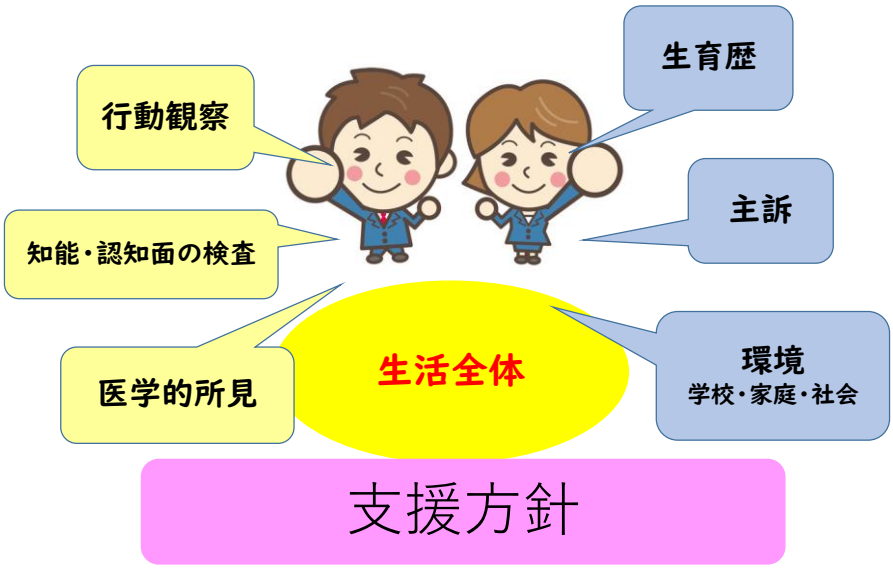
～わたしたちにできること～

私の考え方の基本

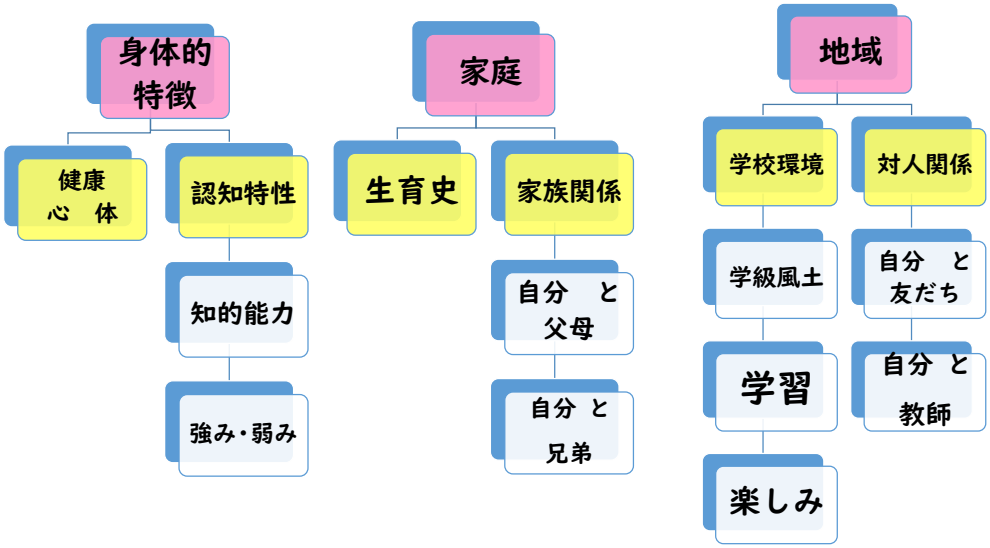
・できているところから　できていく
（特別支援教育の基）

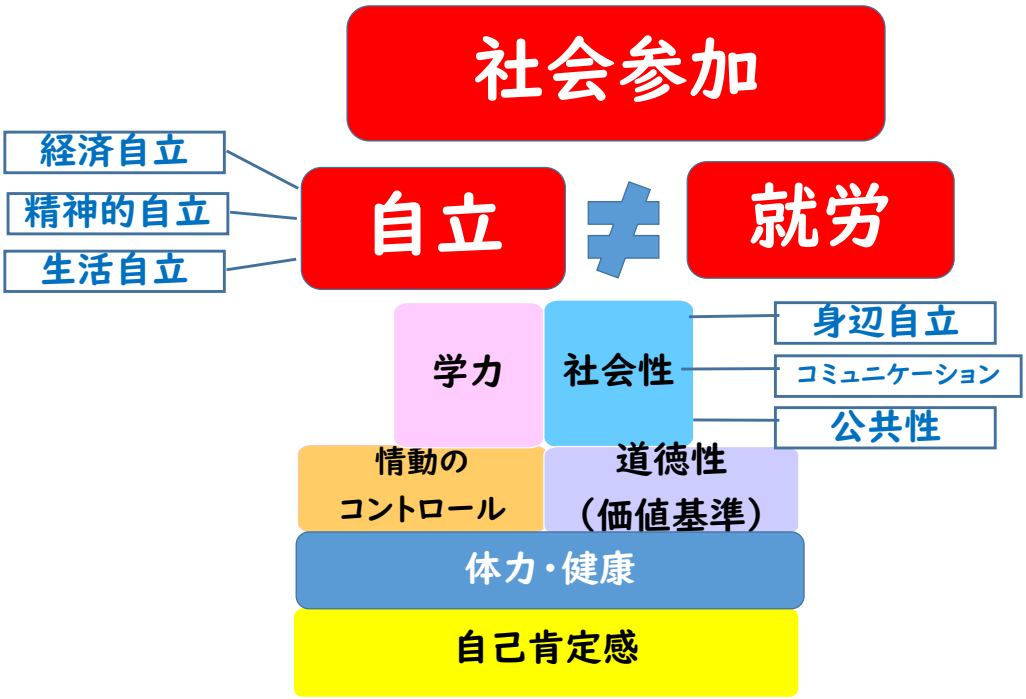


本人の特性



アセスメントに絡む要因





私の考え方の基本

1908年4月1日ー1970年6月8日

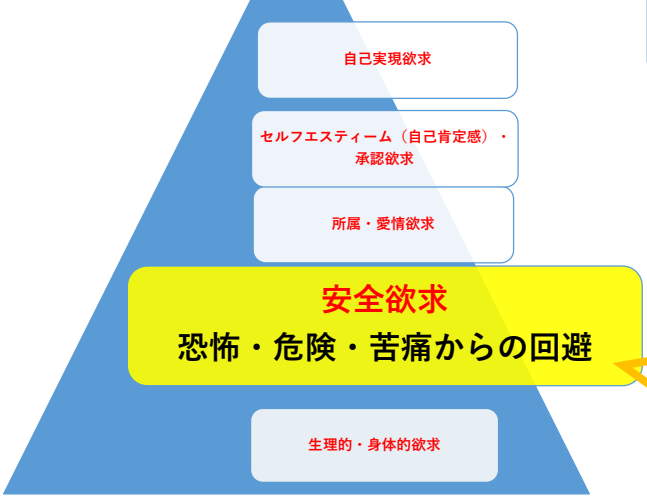
マズローの欲求５段階

健康第一

・心身の不調、不快に共感する。
・もしかしたら、身体的な病気が隠れているかも知れないことも想定する＝内科等の受診
・生活の工夫で改善できないときは、医療機関の相談も検討する。

・眠れない
・起きれない
・昼夜逆転
・食欲がない
・食べ過ぎる
・痩せる・太る
・発熱
・身体痛
・血圧
・感覚過敏・鈍麻

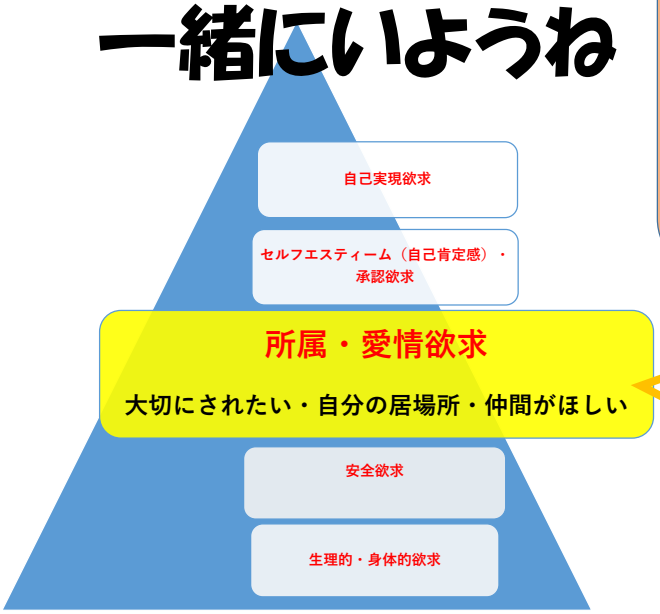
安心・安全



・学校・勤務先では
　安心できる場・人・時間・事柄の調整
・家庭では：
　リラックスできることを第一に

・人に合うのが怖い
・人の目が気になる
・大勢の中にいると疲れる
・いやなことをされた
・いやなことがある
・刺激（言葉など）に対して泣く・暴れる
・勤務先と家庭の様子が違う→過剰適応

一緒にいようね

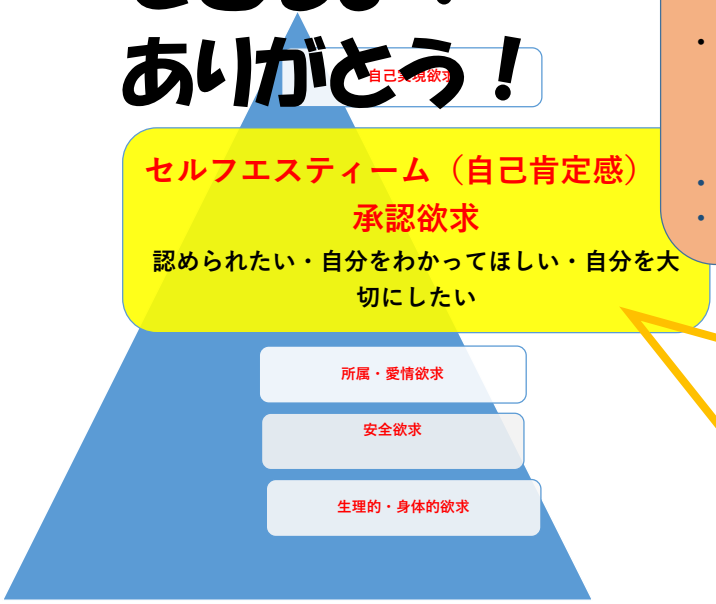


・できていることにＯＫを出す。
・提案⇔**相談**⇔やってみて⇔修正

・主体的に始める行動は何？
・たのめばやれることは何？

・寂しい→誰かとつながりたい
・オンラインゲームやSNS等
・一人でいるのがこわい
・特定の活動（好きなこと）には参加できる

できるよ！ありがとう！



・「ありがとう」のメッセージを伝える。
・願い事を聞き出す。
「やりたいことは何？」
「一緒にやるよ」「応援するよ」

・主体的に始める行動が増えている？
・頼みごとを増やす。

・所属集団の中での役割を果たそうとする。
・所属集団の生活リズムに合わせて、自分の生活リズムが整う。
・自発的な行動が増えている。
・会話が増える。

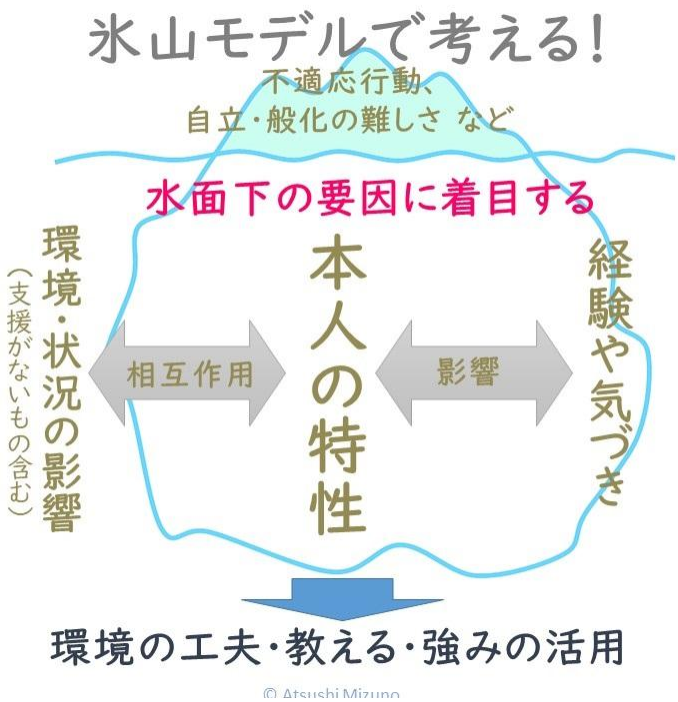
できてるよ！

・本人のやりたいを支える

・自分のためだけでなく、自分の力が社会（所属集団）の中に役立てたい。役立つ。と自覚していく。
・他者を意識して自分の行動調整をする。
・

発達障がいに着目すると

- 発達障がいのある人たちは、その特性ゆえに社会的には躓きやすさがある。
- 環境次第で生きやすくも、生きにくくもなりやすい。
- 一方で、優れた能力も持ち合わせている場合もある


氷山モデルで考える！
不適応行動、
自立・般化の難しさ など
水面下の要因に着目する
環境・状況の影響
（支援がないもの含む）
相互作用
本人の特性
影響
経験や気づき
環境の工夫・教える・強みの活用
© Atsushi Mizuno

「環境を整える」とは

いつ
時間
どこ
場所
環境
だれ
人
何
事柄

発達障害と社会性の困難さ

LDの「言語のつまずき」と社会性の関係

- 低学年：
- 「言葉数が増えない」「人にわかるように話せない」
- 「うまく発音できない」
-
- 高学年：
- 「上手く友人がつくれない」
- ・・言葉を知っていても話すことに時間がかかる
- ＝運動機能・言葉の想起・聞き取り方
-
- 学力習得が社会性の獲得に影響する

ADHDと社会性の関係

行動特徴が「社会性のつまずき」に見えやすい

- 不注意・多動 → 社会的場面での不適応
- 集団行動がとれない
- 集団から逸脱する
- 考えることと、体を動かすことのタイミングコントロール
- 行動コントロールの技能習得
- 環境整備
- 経験不足から生じてくる社会性のつまずき
- 逸脱行動による不参加
- 叱責の繰り返しによる二次的障害としての反社会的行動、
- 自己肯定感の喪失

自閉症スペクトラムと社会性の関係

- 対人意識、こだわりなどが生む社会性のつまずき
- 「人との距離感」
- 「雰囲気を読む」
- 「場に沿って言動を調整する」
-
- いいモデルと本人のモチベーション
- 「できること」を増やすのではなく、
- 「やりたいと思うこと」を増やすこと

- 感覚の過敏、鈍麻
-

発達性協調運動障害（DCD)と社会性の関係

- 知的発達に遅れもなく、
  明らかな脳障害や神経・筋肉の障害はなく、
  言語性知能は優れているものの
  学校や家庭内で生活に支障がでるほどの不器用さが現れる

発達性協調運動障害（DCD)と社会性の関係

- 不器用、運動技能の遂行における遅さと不正確さ
  不器用（例、物を落とす、またはぶつかる）
  運動技能の不正確さ等
  （例、物を掴む、はさみや刃物をつかう、書字、自転車に乗る、
  スポーツに参加する）

・笑われたり、叱責されたりして、
  自信をなくす、傷つく、
・参加を拒む

発達性協調運動障害（DCD)の特徴例

- 平らな道でもよく転ぶ
- 転んだ時に手が出ない（顔から転ぶ）
- ハイハイやお座りができない
- 靴ひもを結べない
- トイレでお尻がふけない
- ファスナーを上げられない。ボタンをはめられない
- 文字がマスや行線から大きくはみ出す
- 模型やパズルを組み立てられない
- 消しゴムを使うと紙が破ける
- 階段の上り降りがぎこちない
- 道具がうまく使えない（箸、定規　など）

今の時代の困難さはどこからくるか

「みんなと一緒」という　漠然とした目標

「待てない」という時代のスピード感

↓

・・・じゃなくてもいいか・・という寛容さ

だから

カルチャー

・ひとりひとりの歩き方をみとめる
（生活のしづらさの調整は必要）

・その子（人）の「好き」を大切にする

・自分のごきげんは自分でとる

（ごきげんになるためのお手伝いはししますけど・・・）

ありがとうございました。

困っている子どもの代弁者
熱心な支援者のサポーター

長野県発達障がい情報・支援センター
副センター長・コーディネーター
宮内　かつら

〒390－0802
長野県松本市旭2丁目11－30 松本旭町庁舎
電話：0263 - 37 - 2725
FAX：0263 - 37 - 3350
所属mail：hattatsu@shinshu-u.ac.jp
個人mail：k.miyauchi@shinshu-u.ac.jp

公認心理師　臨床発達心理士SV　ガイダンスカウンセラーSV